
僕は仕事ができない

並盛りライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕は仕事ができない

【ZPDF】

Z97801

【作者名】 並盛りライス

【あらすじ】

僕は仕事ができない。今、その事にやっと気がついた。
気がついた時、とても怖くて絶望した。

いつの間にか、こんなに人間が怖いという事実に僕は絶望した。こんなに人間を愛しているのに、僕の声はいつも心の中で穏やかに響くだけで喉を震わせない。

声を張り上げたり、無理に笑つてみたりできない。くだらないと思ってする、くだらない話というのが僕には全く分からぬ。

世界がおかしいのか、僕が変なのか分からぬ。

たぶん後者なんだろうけど。

どんな上司も嫌いじゃないし、好きな所がすぐに見つかる。だから、ちゃんと話をしない僕が悪いのだろう。

僕は仕事ができない。

今の会社に入った時、僕は仕事ができるとは思わなかつた。ただ努力さえ怠らなければ僕は人並みに働けると信じていた。けれど現実には、思つていたよりも酷くて、リーダーシップを発揮できない。

いつも人より後に立つていて、相変わらず仕事ができない人間でいる。

僕は今まで、人よりも多少なりとも真面目に生きてきたつもりだ。その事で馬鹿にされたりもしたけど構わなかつた。

最後はみんな、真面目な人つていうものを受け入れてくれていたし、嫌われたりはしなかつた。

僕はみんなが大好きで、できればみんなが僕を好きか、好きでも嫌いでも無いと思つてくれさえいれば、それで良かつた。

でも、これからはこのままでは駄目なのだ。

愛想笑いや馬鹿話、時には誰かを叱つたり褒めたりしないといけない。

そんな事が僕にできるのだろうか。

分からぬ。

でもこのままじゃ、きつと限界が来る。

今の仕事を続けたいなら、僕は変わらないといけない。

明後日、僕の役職が上がる。

僕は少しだけ普通の人間に近付けるのだろうか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9780/>

僕は仕事ができない

2010年10月19日19時06分発行